花乃宴

又

詞を若干首

[V.8]

PL788
.4
.G4
1654
vol.8
Copy1
Asian
Japan
Cage

2004551302

なごん紫宸殿の桜のえんせき
なつかしきこうぐう
を給。若宴のれつ。ひだりうこぎ
右よりて。まうのぼり
こうさぶん
弘徽殿のおもて。女御
なつかし
中宮のうてなをかざりみち
をよそほひ。おりをえず
ものうきはるのふぢいろくれて。そくさいきょう
のうたも心ちよげなるよみこうしん
探韵
ぢめて。それぞのいでいれどもむかん
詩作文
をり。宰相中将
さいしょうのちうじょう
春よりもまして
なつかしくおぼえ
給。
とのの
ふるさとへれいの人よりもうつぢ。
ゆべめやすく
いもうとなどおぼえ
給。
とのの
もてあそびめでこしげうひなどまで

うちうちの人ぐにこれおろしごろよくこれごろつめる
おほうち地下の文人(もじん)にまじりてこれぐ芸(げい)のこれざし
うろくすごれておりまするろろろよやむごと
なき人おほくもれ給ふころなりければ
てぐろぐろとまりなきころ尾(お)よ豆生(ろう)ろ程(ほど)ぐろ
ろてやとさ程のことなれどろろげなりぐ
老(おい)ろろせどものなりおやさくやつれてきいるれ
ろも哀(あれ)よさ尾ぐはろんずろなんおうろりけるが
くどもなすどいろろよもいろぐよぐのへさせろまつへり
やうく八日よりろ程よ春の夢(ゆめ)さしづろといふ舞(まい)ごと
おもしろくゆろよ源氏のれ紅葉(もみぢ)の賀(が)のおろり(たけん)

しおれてゐ給へるさま、なほ人にすぐれてめでたく、袖を顔にあてて、ふしまろびたまへるを、引きやりて、御髪のかかりたまへる額つき、髪ざしなどの、ただ、ここもとに、見たてまつるここちして、あはれまさりぬべし。

御法事のことども、いとかしこくいとなみおきて、なほ、いとあはれにて、御念誦したまふ。

御手づから、紫の紙に、

ながめやる袖さへにほふ夕ぐれは

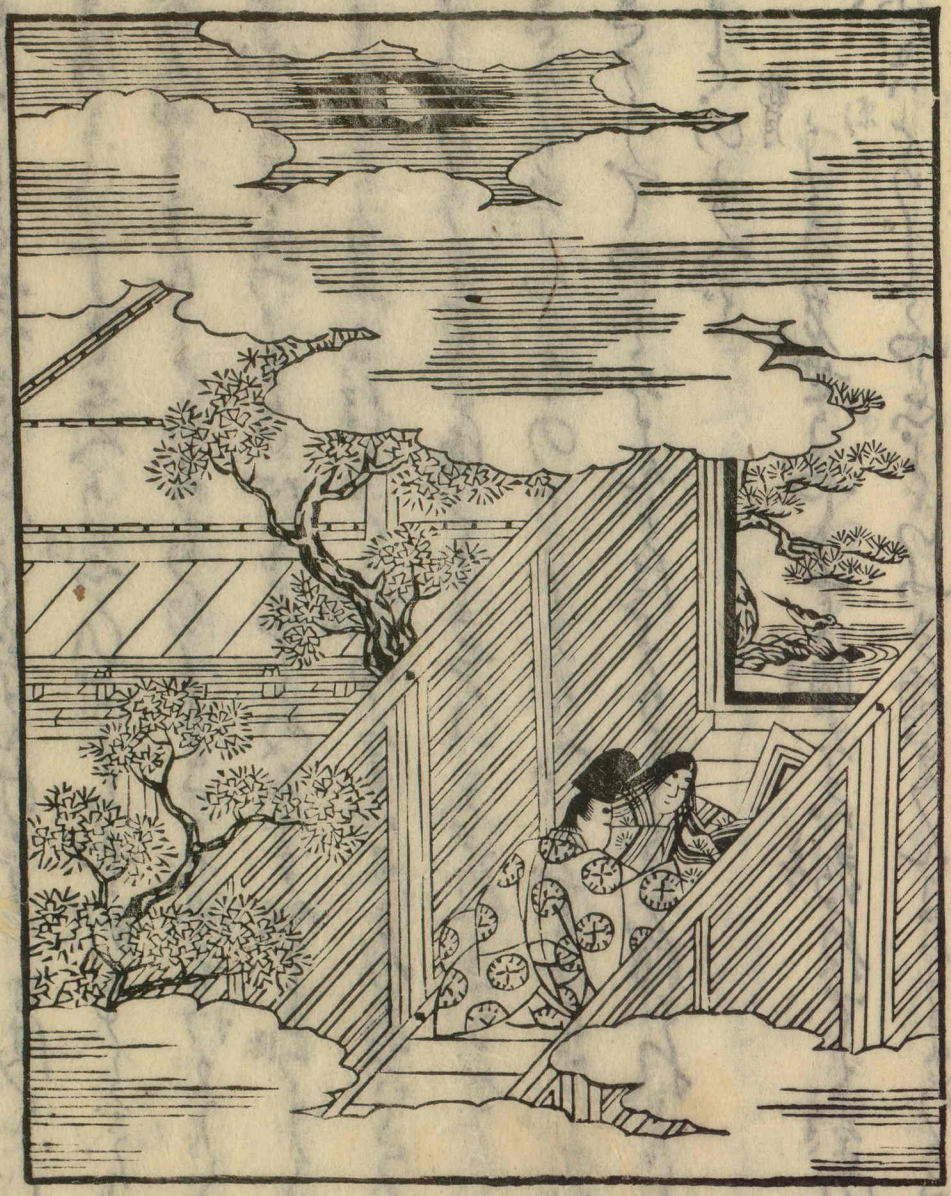
と書きたまへるを、

ながめやる袖さへにほふ夕ぐれは

もいうべくもやうのおりよりまづこの源氏を
光(ひかる)のきみとぞもいでそやうやうおとなびたまふ中宮(ちうぐう)
はめでたしとまもるにつけて世(よ)の人(ひと)の妬(ねた)
ろきまでもあやしうやがうやうもてなしたまへ
とてこびうるはしくへつらはれけり
太(おほ)きおとゞのそこゝろをたてまつるにも心乃
ゐれまゝやかに地(ち)心のうちにもりけんよいうでもり
よけんあいうみけてちんごとてけるよ逢(あ)ア
まくあだれ名(な)高(たか)き女(をんな)へせのひめれぐのよや
うにもてなすありさまいとあらまほしきを
を源氏のきみもひぢりにすゞろ

それがうへの人ぐもうちやすうてうやうまおもひ
なほ行よもしさうめべさひまもやあるとふぐう
つびわうをゆりなう更びてうぐひなりけど
うつふべさくぐうもうてぐれうちちびき
てなをあうぐよ弘徽殿のほそどのよ立うう給
へれば三のうちあさうう弘徽殿女御につぼねやや
ぐてまうのぐりまひよそれぐ人ずくるうそひ
ケうおくのううどもあうて人をともぜうや
うまて世中のあやまちいするぞうとさてや
まうのぼりてのぞさ給人いれれうべしいとう
うおうしげうるこのたすべての人と注学しめ

おばろづきよのみるおもぞなどとうちずんじてゐるところへ母よりもれがいでうれしくてとく袖をひらく人給へおそろしくおもへる気色(けしき)なれば涙(なみだ)ぐみてなかむくひ(涙)てくのの人どもなるようとまもりさとそらあや(あやし)とて思ひてやをらいでさまをうかゞひてゐるに女(をんな)のおもかげはるかに表(あれ)をさるよへなのおばろけかうおうぼなうぼうくくこよひのとのの人どもまろいされ人はやうされいれぬめしそとてもかでうこそあらんとおもひてこのびてとの給ふをよび(女)まんとうちよりてまさぐめていさくうちすぐさんとう



★ひびしくさくるもれうこそさくこそ
うはこそしづとさくこそひごころや例(れい)るこぶり
けんゆうさんこといふこころもこそよもかうさ
やぶこそつよさこころもこそめさるべし(ほ)らうさ
しこそこのみる行るく明(あけ)ゆるばこころあいふく
しおはまりてさ後ぐるさひこぶれこるそ
さきうりおを(ほ汚)をかのりしのへいうでうさこそべ
さうでやこをんさ尼さうこもばれこぶ
そこのみへこ

腎月

うこさ見せよやうそ消(き)さぶ乱(み)れてこるの
系こぶこうこぶこやさこいふさ後えんこをのまめこさ

涼汁
ろうそくやさんそくさんもーれとて
涼
いづれぞと名のるやぞうとうろうこまつぐばハ
らうぜまいてうけうづくうりぼてくとか
らずいかるうつまんまーすひきうふうもも
えいひあんぺんくらさうだぎうんのれつぼれる面
りうらぶうまぬどまうげくまうんぺいとりうなく
ておうぎぐうりをうろーはうりんてひあぬぎうり
つぐうだひとぐくあねくまうんのてとぐうらぐうう
もあればうくうとさもうもこうさんぬあびあうとさ
れとうきうろひつぐそれとぐーあんぺいうり涼
のてうーあれどれいうれぐいうりうりうん

のさ風くるか女共のれおとうとうそろうそいあうめ
まぐうるなれぬいえ六のまるうんうそろの空の
小のくう就中れのすうああ四のまるぐうそぐうそ
そうくうぐ呼くうそれるうまうくうぐいますうそうおう
うまうくうぐ六いま空(とう)ぐ(く)よそまうくんとうそろぐう
のへうをいうそうまうべいうるうぐうそうう
うぐれむ行もまぐうそうくうそうそうるんとう四うあ
気(の)をそうそうぐいうそれぐうぐうようすべうそ夜
とうそうへぐうなうめうんなぐうぐうるうふも心の
とうまうなうべうくうやうそうそうまうつけてもまげ(なび)
やうりの空(うま)の。くようそうくうまうりうろうやとおう

ぐうもひとべられのみ、其日ハ渡辺のことなり
てまぎれてとゝ結びざうの琴つゝまもり給ふ
此日のことゝもおもひ出めぐらし藤つぼ
暁まもりのぐり給よりうげ月出ぬ。ともあらんと
心もとなくてぞひいでぬるまさよし清雅光を
つれてうぐくもものそれば源ま入給へるとまもりて給
けるほどまぎれ今ぶのぐむりうこれもてゆり
つゝ車どもまもり出るにぐのことべ給ふる
中ま四位か将右中弁なごいそぎいでさく
つゝ伊つゝや弘徽殿のほのぐれなんとみ給
つゝもうハあけぐひどもとるとてうち

なのふとぐとくいひしこゝ後のこゝろくらうさまのへば
せよ源
をそまうべてとゝろさつけまして主のくらゐ
まひさしうそもりよけうくあばをどりうまる心
ゝうそればうらんとなばして二条院へれ
くあゝらまうまいとうのうてばよりてゝ
あいだやうつさらりくもさ心ぐへいとゝなり
なあ有るうづれ心のまうよをうへなうんとお
ばそまうるのめべしおとこのれをうへたのれぐ
すうへんなれまるこやまゞらんとこゝそうこゝろ
うくれ日ごろのれ地位れこよそをうへくう

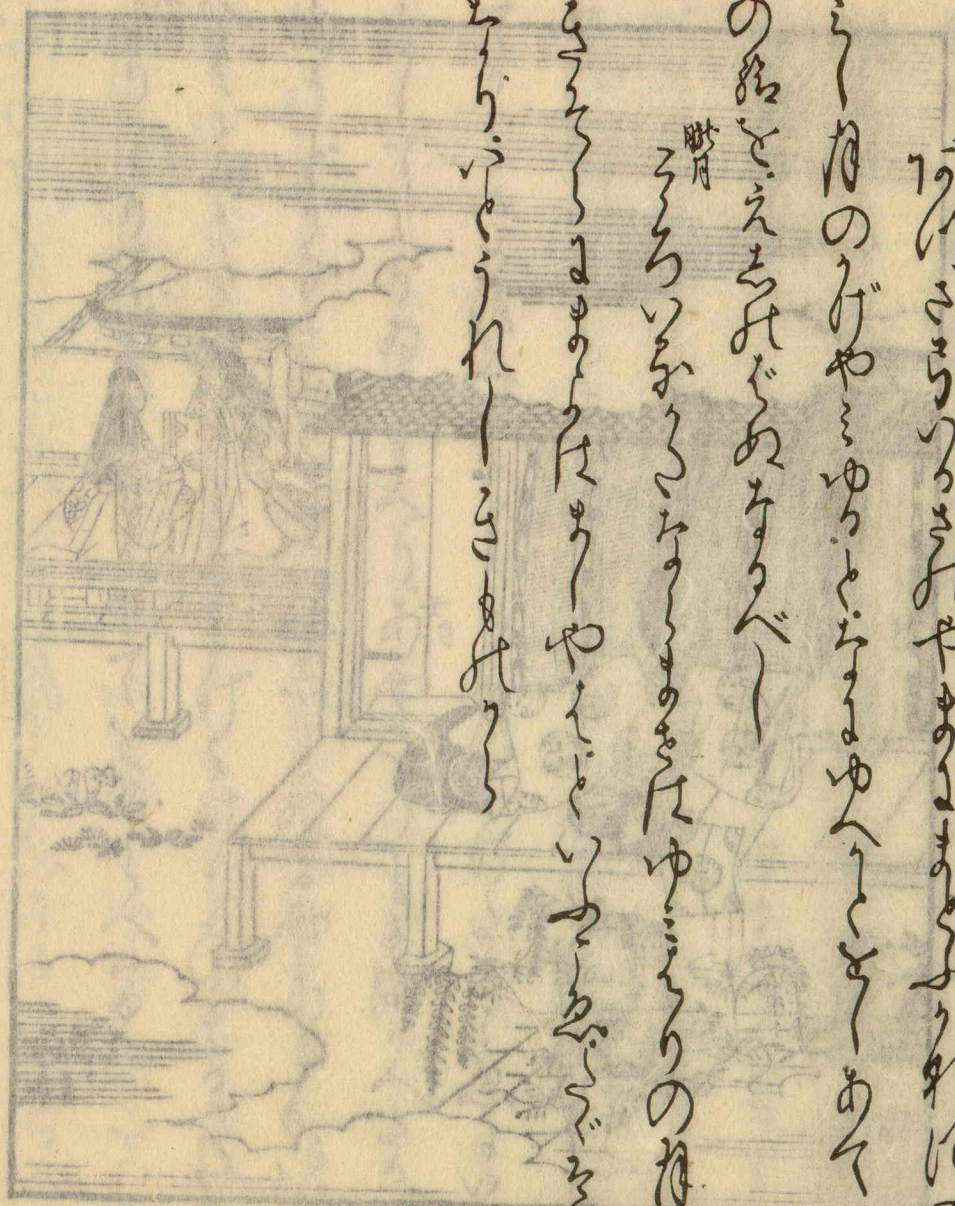
ーてゐでおを例(れい)のとくちりうおをど今
くいとようなくいられてやりるくいまるひまのいは
さぎ(菱)おなのまれいのまともこいんしおくず
つれぐとまろびそーめぐこれてさうのかた
とまるさぐりてやりうるめる来いなくてとう
そひおおぐぐやうりまのて一日(ひと)のけうをーこ
と実(まこと)おさぐら(たち)れようそひまそめいまうのかせ世(よ)四代(しだい)
とをんんおめれどふこびのやうふこどもやう
さくるひぐのーのどもとーのりてこまひの
ぐうことなん仰ごうつくろくのものぐどでども
おほろろにほひくろこまそめとくのへ

さぬべくおぼえけるをりふしおとれもほどくまひめあべき
ゆゑなんしけるをとこのもとにいきてかへりきてのち
ほどへてをとこのもとよりいとこまやかなるふみをこまや
かなるかはらけにもりてかづけものとしてをんなのもとに
つかはすとてをとこのよみてやりける
あふことはたまのうてなにへだてねどかづけものこそ
なかだちしける
返し
かづけものこころこまやかにみるからにたまのうてなも
ものかはとおぼゆ
又をとこのもとにいきてかへりきてのちをとこのもとより
いとこまやかなるふみをこまやかなるかはらけにもりて
かづけものとしてをんなのもとにつかはすとてをとこの
よみてやりける
あふことはたまのうてなにへだてねどかづけものこそ
なかだちしける
返し
かづけものこころこまやかにみるからにたまのうてなも
ものかはとおぼゆ
又をとこのもとにいきてかへりきてのちをとこのもとより
いとこまやかなるふみをこまやかなるかはらけにもりて
かづけものとしてをんなのもとにつかはすとてをとこの
よみてやりける
あふことはたまのうてなにへだてねどかづけものこそ
なかだちしける
返し
かづけものこころこまやかにみるからにたまのうてなも
ものかはとおぼゆ

しのまうでうまでそのほどの源氏の君さま二日
内へそれよりめんのつづでござりしなどうぜ
おもはればくちおしうものくさくさと思ひて
このお将をそこまもり給
大倉ヤガ宿の若しをすべての色るばかなるやうにさら
まさらばまもりぶちるおしすり程まそでへな
そうし給ふりがたもやとわりつきをみてうぜと
あるをとやうまれをよう女ごこもちなどもれ
ひ出る有をれいをすべての御ようにやまでござるど
の給ふ事ひとなどひさうろのみていう
うろうほどまもれてぞわり給さうろの

うつのさえをもてそびでめれさうらふ
よをでくひきてでれ人いうへのさあるうまおぐれ
さうあるさみさでるのなまめさうまてこれ
いうまくられさ夜げるいとことをうう花のまひも
けてされて中くくでさまうまんなそびるでへ
とおもさろうふおひてあをそうてあゆや行よ
源氏のさきいさうふひをやめうさ夜よまてるま
まてまうでれさうまあさうん夜よ女一の宮女三の宮
のおうくまさひんでのとぐうるおうくてでうあ
まうりあでいうるさのつまるあうりてあれば
ううくでるあげうるくてくでいでおさう袖

ぶらりとどこうろうれいりおばさんてごとさんめさまて
むこうばかりさんこうずまげ藤(ふぢ)つぼわこうとおば
ーさんこうか(添)やまこうさまごいこうこうおるれて
まびまてゆうこうこれどばれまへこうこいうげ
まもうくさんやのこあとこうまどれこうばひさくお
へぐおれわづこうこうよこうこうめ人こうやんへごこうるる
ゆうりいうこうちゆうこれどいふこうこうおる
おまくこうこうあこうのどこうこうべてのわこうど
どもこんあこうずおてるあこうこうけこうひこうこ
そこうだこうおいこうくこうみこうこうくゆりてこうあのこうこと
ひいこうこうやこうるこうちゆうこうまこうひるこうてふこうこうく



69038
6AP7B